

# 創造学報

Toyohashi Sozo University News



地域・職業教育・人間教育

2024.夏号  
VOL.50

- P1——**特集1** もっと知りたい! 豊橋創造大学生生活協同組合  
P2——**特集2** SOZOキャンパスライフスタートDAY / 豊橋わかば議会  
P3——**特集3** 地域の健康を支える活動  
市民大学トラム / SO GOOD LIFE Fair  
P4——**特集4** 地域の未来を創造する活動  
起業家マインドスタディープログラム / 豊橋市都市計画課と連携  
大型商業施設ZEB体験  
P5——**研究室から** / 看護学研修センター設立  
P7——**キッズドリームチャレンジに出展** / SOZOふれあいフェス  
ステンドアートシアター / 豊橋鉄道との連携協定



SOZOふれあいフェス  
「和太鼓演奏と和太鼓体験」  
7月20日(土)イオンモール豊川



豊橋創造大学  
豊橋創造大学短期大学部



## もっと知りたい！豊橋創造大学生生活協同組合

本学の学生や教職員が、安心で安全、健やかで活気あふれる生活環境を楽しむことを目的に、昨年11月、豊橋創造大学生生活協同組合（生協）が設立され、今年4月から店舗営業が始まりました。そこで、もっと具体的に生協について知ろうと、本学生協代表理事の清水友彦さんにお話を伺いました。



### ご当地メニューも登場

食堂のサービスで新たに採用されたのが食堂パス（定期券）。初年度となった今年、48人が食堂パスを購入し、毎日30人以上がパスを使って昼食を食べています。アプリの活用で食事内容がわかることから、保護者にとっては「安心」を確認できる手段になっています。今後は、ご当地メニューのフェアやインドカレーフェアなども開催予定。清水さんは、「食堂も組合員さんと一緒に作っていきたい。利用してみた感想や、意見や要望、出してください」と呼びかけました。



### より良い大学生活のために

大学生協は、組合員によって作られた相互扶助の仕組みです。ここでいう組合員とは、学生や教職員のことで、大学生活がより良いものになるように手助けします。豊橋創造大学生生活協同組合では、短大生は2年間、大学生は4年間のキャンパスライフを、様々な面で互いに支援し合うことをコンセプトに、組合員になった人たちを様々なサービスでサポートします。



### 専門性に対応

「サービスは、安全安心をベースに考えられます。例えば食べ物なら、添加

物を制限するなど、独自の安全基準を設けて提供しています」と生協のこだわりについて話す清水さん。

また、本学の専門性の高さを上げ、「ご要望に応えられるよう、授業で使う教科書をはじめ、専門分野に必要な教材や実習等で使うものなども厳選したうえで共同購入し、販売しています」と強調。また、車の免許を取りたい学生たちのための自動車学校説明会の実施や、気軽に相談できる環境も整えています。



### 憩いの場

食堂は、色々な種類のものを選択できる「カフェテリア形式」で、現在、1日110人から160人が利用しています。従前と形式を変えたことで、昼時の混雑が緩和され、提供もスピーディーになりました。「食堂は皆さんの憩いの場でもあってほしいと考えています。わいわいがやがやと笑顔で楽しく食事のできる環境と、適温提供にこだわりました」



### 要望に応え、暮らしを支援

売店の営業時間は、平日の10時から17時まで。店内が見渡せるように、棚のレイアウトも工夫され、商品が選びやすくなりました。一番人気は、お手頃価格のコープ菓子。店内に設置された「生協組声カード」のコーナーには、学生からのリクエストが貼られ、一つ一つの要望にもきめ細かく対応しています。今後も、要望に合わせて、取扱商品なども変えていくそうです。

清水さんは、「食堂も売店も、暮らしを支援する様々なサービスも、組合員である学生さんたちの声を大切にしています。みなさんの期待に応えられるように頑張っていきますので、どんどん声をお寄せください」と話しました。



## 大学・短期大学部の学部学科を超えて交流

### 「SOZO キャンパスライフ スタートDAY」を実施

4月27日、キャンパスライフが始まったばかりの大学・短期大学部の1年生240人全員を対象に、「SOZOキャンパスライフスタートDAY」(キャンスタ)を実施しました。昨年からスタートした1年次実施教育プログラムで、合同授業とグルーブレクリエーションを通して、学部学科を超えた学生間交流を図り、友だちづくりや自己発見の場となることを目指しました。



#### 「建学の精神」と学ぶ レクリエーションを楽しむ

1時限目は、伊藤晴康学長による合同授業「『建学の精神』に関する講義」が行われ、学生たちは大学の歴史と、「建学の精神」、未来を見据えた社会的役割について学びました。

2時限目は、レクリエーションとして、与えられたミッションを解決しながら大学施設を探索する「デジタルスタンプラリー」に参加しました。

学科混合で21チームに分かれた学生たちは、チームごとに用意されたミッションに挑戦し、様々な体験を共有しました。全チームとも時間内でミッションをクリアし、ゴールで、昼食チケットを手に入れました。



#### ミッションに挑戦

経営学部の男子学生がリーダーを務めたチームは、「『手話かるた』をやってみよう」、「赤ちゃんや子どもの体重を当てよう」などの5つのミッションに挑戦。

「手話かるた」では、出題者の手話を見て、何を表現しているかを当てるカルタを通して、サイレントの世界を体験しました。子どもの体重を当てるミッションでは、男子学生たちも人形を抱き、真剣に体重を予想。苦戦していましたが、学部学科を超えた体験となり、学生間の交流を深めました。



#### 学生間交流を深めろ

「デジタルスタンプラリー」を進めていく中で、同時に開催された「写真コンテスト」のために、ラリーの様子も互いに協力して撮影。いくつかのミッションをクリアしていく中でチームメイト同士の結束が強まり、チーム全員で写真を撮る姿が学内のあちこちで見られました。

学生たちは、「他学科の人たちのことを知り、交流を深める良い機会になった。これからのキャンパスライフが楽しみ」と話し、今後の大学生活に期待を寄せました。

午後からは、学生会主催のイベントが行われ、学生間交流をさらに深めました。

## 第5期豊橋わかば議会で、 短期大学部キャリアプランニング科1年生が所信表明

「豊橋わかば議会」は、自分たちが住みたくなる街の実現に向けて、若者たちが政策を考え提案する取り組みです。今年度は、15歳から25歳までの19人が若者委員となり、本学短期大学部キャリアプランニング科の高村弓さん、鈴木未徠さんらが任命されました。6月5日に、豊橋市議会議場で所信表明があり、一人一人が登壇し、現在考えているアイデアや提案を交えながら「若者委員として頑張りたい」と抱負を述べました。豊橋市の浅井由崇市長は、あいさつで「豊橋を良く知り、既成概念にとらわれることなく、若者らしい感覚で、あっと驚くような提案をしてほしい」と期待しました。



浅井市長と記念撮影。高村さん(左)鈴木さん(右)

### 本学生の所信表明

#### 高村弓さん

「5年後10年後に自分が住みたくなる理想の豊橋について考えて提案したい。具体的には、子どもから大人まで誰もがスポーツしやすい環境づくりと外国人も住みやすい環境づくりを考えたい」

#### 鈴木未徠さん

「豊橋市の交通の魅力を市外の人に伝えたい。例えば、路面電車や牛川の渡し舟など、環境にやさしい交通手段があることを伝え、豊橋が住みたい街ナンバーワンになる政策を提案したい」



## 2024年度市民大学トラム 豊橋創造大学・豊橋市教育委員会連携講座 テーマ「自分らしい暮らしをいつまでも」

「市民大学トラム」は、豊橋市内にある3大学と豊橋市教育委員会が連携して開催する市民のための公開講座です。2024年度の本学のトラムは、保健医療学部理学療学科が担当。「自分らしい暮らしをいつまでも」を共通テーマに、理学療学科の教授と講師による4つの健康講座が開かれました。毎回、100人以上の参加があり、大好評でした。

### 第1回講座 5月25日(土)

老化は止められるか？  
衰える筋肉とその対策



●講師／大学院健康科学研究科長  
後藤勝正教授

「老化は止められるか？」を考えるためには、「老化」の仕組みについて正しく理解することが必要と、老化と加齢、筋肉と老化の関係性、筋肉（骨格筋）を動かすことの重要性を解説。老化に対する有効な予防対策として、筋肉を効果的に強化する方法などを示しました。そのうえで「老化は止められます。ただしあなた次第です」と述べ、「筋肉を大切に、適度な運動と精神的ストレスのない楽しい生活を送りましょう」と呼びかけました。

### 第2回講座 6月1日(土)

人生100年時代  
百寿者からも学ぶ  
健康寿命



●講師／保健医療学部長  
小竹伴照教授

「超高齢社会とはどんな社会をいうのか」と問いかけ、高齢化率や平均寿命についてのデータを上げて様々な視点から日本の状況について説き、「日常生活動作の自立が、百寿者になる確率を高めている」と解説。また、高齢者の体力に関する推移に注目し、文部科学省が導入している「新体力テスト」を紹介。「身体活動は、生活活動と運動から成り立つ。日常の中で今よりもできることを少しでも増やすことが健康づくりには重要」と話しました。

### 第3回講座 6月15日(土)

骨格筋痛について



●講師／理学療学科  
西啓太講師

運動後に生じる「筋肉痛」や、近年問題になっている「慢性疼痛」について、最新の研究情報をもとに説明。「筋肉痛」では「遅発性筋肉痛」を取り上げ、原因と治療と予防について話し、「慢性疼痛」では痛みの要因やその経路について説明し、運動と身体機能の関係について解説。自身が研究している急性骨格筋痛に対する「ミラーセラピー」など新たな運動療法も紹介。「無理のない運動を習慣化することが健康につながる」と強調しました。

### 第4回講座 6月22日(土)

今日から“貯筋”  
はじめませんか？



●講師／理学療学科  
横山真吾講師

「市民大学トラム」のテーマである「自分らしい暮らしをいつまでも」続けるためには、『貯筋』が一番簡単で大切」と述べ、その理由を正しく理解するために、知っておきたい本来の筋肉と、筋力が低下するとどうなるかを説明。その上で、予防と骨格筋量を減少させないための『貯筋』のコツについて話しました。「他人の貯めた筋肉は使えません。将来の自分のために『貯筋』できるのは自分しかいない。今日から頑張ってください」と呼びかけました。



5月25日、豊橋市白川町のサーラプラザ豊橋で、地域の人たちを対象に開催された企業イベント「SO GOOD LIFE Fair」(サーラグループ主催)に本学も参加し、保健医療学

## 保健医療学部看護学科 地域企業との連携事業

### サーラグループ主催「SO GOOD LIFE Fair」で ワークショップ「身近なものであそ防災」、開催

部看護学科の河合洋子教授と谷口陽香助教がワークショップを開きました。テーマは、「身近なものであそ防災」。ゴミ袋のレインポンチョや新聞紙のスリッパなどの防災グッズを、親子でいっしょに作り、楽しみました。

河合教授は、「全国各地で大規模災害が多発しています。私たちの暮らす豊橋市も例外ではありません。このワークショップが防災について考えるき

かけになればうれしい」と話しました。

本学とサーラグループは、2007年に連携・協力に関する協定書を結び、それ以来、様々な事業において、連携・協力しています。





## 「起業家マインドスタディープログラム」に経営学部生が参加



東三河県庁主催の「起業家マインドスタディープログラム」が、5月18日、豊橋市駅前大通二丁目のemキャンパス・セミナールームで開かれ、講演とワークショップが行われました。参加者は、市内の大学生と地元企業の若手社員など51人で、本学経営学部の学生16人も参加しました。

## 「システム×デザイン思考」による課題解決に臨み、他大学の学生や社会人と交流。学びを深める。

第一部では、ゲストスピーカーとして、スタートアップコミュニティマネージャーの勝間亮氏が「東三河地域をイノベーションに導くスタートアップ（起業家）マインド」についてスピーチ。続けて、社会課題解決のための手法「システム×デザイン思考」の第一線で活躍する慶應義塾大学の西野瑛彦特任講師が、国内外の事業の事例を上げながら「システム×デザイン思考」についてレクチャーしました。

第二部では、西野氏によるワークショップが行われ、参加者らは「10年後の豊橋が、日本や世界をリードする豊かな暮らしやすいまちになるためには」についてアイデアを出し合い、実現させる手段を考えました。西野氏は、「今日のワークショップを

今後の自分の活動につなげてほしい」と期待を寄せました。

### 本学参加学生から

#### ●経営学科3年・袴田美咲さん

未来を構想する力が大切ということ、考える際にはWhyやWhatから先に考え、Howを考えると「システム×デザイン思考」について理解を深めることができた。

#### ●経営学科3年・尾藤創太さん

他大学の学生や企業の人と交流でき有意義だった。他の人の考え方に触れたことで、現在、自分一人で行っている事業（メガカ販売）において新しい切り口を見つけることができた。

#### ●経営学科4年・鶴飼空紀さん

地域の課題解決、発展のために何ができるのか、他大学の学生や社会人の方と意見交換ができ、非常に有意義だった。常に好奇心を持ち、積極的に学ぶ姿勢が必要であることを感じた。

## 豊橋市都市計画課との連携



6月12日、豊橋市が制作した景観マップ「豊橋の景観さがし絵ボード」を活用して、園児たちの遊びを考える特別講座が開かれ、短大部幼児教育・保育科2年生46人が参加しました。

## 「豊橋の景観さがし絵ボード」を題材に 短大部幼児教育・保育科2年生が園児の遊びを提案

学生たちは、実際の「豊橋の景観さがし絵ボード」を手にしてイメージを膨らませ、園児の遊びを考え、発表しました。

その中の一つ「豊橋の音さがし」は、どんな景観から、どんな音が聴こえるかを考えて景観マップに印をつけて楽しむという提案で、探した音は、楽器を使って表現するという活用方法まで考え、発表しました。

チームリーダーの一人は、「豊橋のまちなみ」の音を通して、よく知られている景観だけでなく、身近な場所の良さにも気づき、音さ

がしを楽しんでほしいと思った」とコメント。

講師を務めた豊橋市役所都市計画部の小原千安輝さんは、チームごとに様々な視点で考えられた遊び提案に感心し、「景観マップを、これからの皆さんの教育活動に生かしてもらえれば」と期待しました。

\*豊橋市は、市の豊かな景観を子どもたちにより深く知ってもらうことを重要とし、そのためには、子どもたちと触れ合う保育士・幼稚園教諭を目指す学生たちが、郷土について学び、豊橋の景観の魅力を知り、感性を磨いてほしいと考え、今回の実施となりました。

## 大型商業施設ZEB体験ツアー



経営学部経営学科のエネルギー環境ビジネス研究室の見目喜重ゼミナールは、6月27日、大型商業施設ZEB体験ツアーを実施しました。対象となったのは、本学と連携・協定を結ぶ豊川市のイオンモール豊川で、3年生6人が参加しました。

見目ゼミでは、持続可能な社会の構築

## 経営学部経営学科、見目ゼミの3年生、イオンモール豊川でZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を体験

に向けて、再生可能エネルギー利用や省エネルギーの促進などをテーマとした研究に取り組んでおり、今回の体験ツアーは、その一環として実施されました。

学生たちは、イオンモール豊川のZEB担当者から、大型商業施設では難しいとされているZEB（Net Zero Energy Building／ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）にどのように取り組んでいるか、具体的に説明を聞き、そのうえで館内の各設備等を見学しました。

学生たちは実際に現場に立ち、自分の目で確かめることでZEBの実現について理解を深めました。見目教授は、「幅広く

現実を知る機会となった」と話し、学生たちの今後の研究に期待しました。

### 見目ゼミの学生から

○「今回の見学で、インターネットなどの資料からは気付かなかった様々な知見を得ることができた。特にバイオマス発電は、見学前は機械によって半自動的かつ大規模に生ゴミを処理すると考えていた。これからは、現場で運用することも意識して机上の空論にならないように考えていきたい」

○「今回の見学を通して、今までショッピングなど遊び場として利用していたイオンモール豊川がお客様に快適に過ごしてもらい、環境に優しく設計されていたことがわかった。ダイナミック自然換気、メガソーラー、バイオガスなどを見学し、状況を実際に見せてもらったことでよく理解できた」

## ●保健医療学部 理学療法学科

### きっかけは一生の宝になる

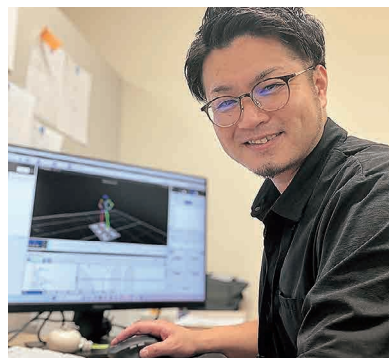
私自身が肩関節のケガで手術をし、理学療法士に出会い、このことが理学療法士を目指すきっかけとなったという経緯があり、「肩関節に関する動作解析」を中心に研究を進めています。関節の中でも肩関節は多くの動きを行える関節であり、かつ身体のあらゆる部分の影響を受けます。そのため、さまざまな視点から運動を分析し、より効率的な理学療法を提供できるように研究をしています。

私のように何かのきっかけというのは、

キャリア形成に大きな影響があると考えています。どのような理学療法士になりたいか、大学生活の中では医療・介護関連施設で行う臨床実習が大きなきっかけになると思います。理学療法教育の要である臨床実習をより有意義に行い、卒後のキャリアアップにつなげられるような道筋を立てて一生の宝になるようサポートをしていくことが私たちの役目でもあると思っています。

## 小川祐太

保健医療学部 理学療法学科 助教  
豊橋創造大学大学院健康科学研究科修了。修士（健康科学）。理学療法士として総合病院、専門学校の教員を経て、2022年度より現職。専門は、肩関節に関する三次元動作解析、理学療法教育。



## ●保健医療学部 看護学科

### お母さんたちの「産後の生活」を見据えた支援について研究

近年、核家族化や子育ての経験がないまま母親になる女性が多いことから、産後の母親たちは戸惑いや不安を抱えながら育児に取り組んでいます。こうした現状を見て、「産後の生活」とは何だろう？と研究を始めました。「産後の生活」には、妊娠期からその人に合ったサポートを提供することが必要です。また、妊婦の多くが、育児の楽しさや喜びよりも大変さや辛さをイメージしていることから、夫を含めた支援の有効性を考え、妊娠期に夫と共に保健指導を行い、産後の生活

をイメージする研究を進めています。母親が「母親としての自信」を得て、新しい家族を含めた「家族として成長」していくことが、産後うつ病や児童虐待の低減の一助になると考えています。

出産の時、怒っている人や悲しんでいる人はいません。新しい命の誕生を家族みんなが笑顔で迎えています。誰もが大切な存在です。育児とその家族が笑顔で、家族として成長してほしいと思い研究に取り組んでいます。

## 石田都乃

保健医療学部 看護学科 助教  
総合病院の産婦人科病棟に助産師として勤務。修士課程（看護学専攻）を修了後、助産師教育と看護師教育に携わる。2021年4月より現職。



## ●経営学部 経営学科

### 人の心理評価に着目して 消費者行動の推定方法を考える

多変量解析などの科学的なアプローチから、商品やサービスに対する消費者の行動（選好）を読み解いたり、経営の諸問題にアプローチしたりする試みをしています。

近年では、消費者（人）の持つ矛盾した心理に着目しています。消費者（人）の持つ矛盾した心理とは、「好きだけ嫌い」「嫌いだけ好き」といったようなものです。そのため、被験者の矛盾度が得られる、ファジ理論を応用した評定尺度法であるFCR法（ファジ多項

目並列評定法）の応用により、消費者（人）の持つ矛盾した心理が、消費者行動（選考）にどのような影響を「与えているのか」「与えるのか」について研究を進めています。

ゼミナールは始まったばかりのため、学生たちは消費者行動の基礎的な理論を学ぶことから始めています。その後、個人やチームで学生同士が相互研鑽しながら、消費者行動を明らかにする研究活動へと進んで行くことができると考えています。

## 山田洋巳

経営学部 経営学科 教授  
愛知工業大学大学院工学研究科生産・建設工学専攻  
博士後期課程修了 博士（工学）





## ●短期大学部 幼児教育・保育科

### 子どもの成長に欠かせない「音」、 「音楽」の環境づくり

人として「音楽」の存在は欠かすことのできないものであり、どんな音楽であろうとも、一人ひとりの感性に寄り添うものであると考えています。特に子どもの成長において、「音」は重要な素材の一つです。そのため授業の主旨としては、学生たちが、子どもたちの「自然の音を聴取しながら生活のリズムを感知していく」「音を自発的に表現しながら生きていく力の土台を育む」「人との関わりの中で音を共有し協調性を学んでいく」等の成長過程

を理解し、保育での音活動方法への構築を目指しています。その具体例としては、年齢別の使用曲選択や、そこに付随する身体活動、自然素材を使用した創作楽器制作などで子どもが興味を示す活動を探索します。

また子どもたちに表現する「創作ミュージカル」では、効果音使用方法や音での感情表現について、学生同士が話し合うことでブラッシュアップを確認することができています。

## 井中あけみ

短期大学部 幼児教育・保育科 教授  
愛知教育大学大学院修士課程修了教育学修士、専門分野「幼児音楽教育学」、研究テーマ「子どもの自発的音楽表現活動」「保育の主體的表現指導方法」「子どもの創作的表現」等



## ●短期大学部 キャリアプランニング科

### 希望の進路へ導く 「就業力」を研究

学生の入学から就職までの期間にアプローチできることにスポットを当て、現在の社会が求める人物像の分析と学生に足りない能力の育成、言わば「就業力」を高めるプログラムの考察を行っています。また、「能動的学修の定着化による個人の能力の評価方法」などを研究テーマに据え、新入社員の早期離職や非正規雇用社員の増大など様々な

問題が生じているこの時代に、学生を希望の進路に導き、その後も自分らしく生きられる力を高める教育プログラムを探索しています。

また、現在は公務員コースを担当していますので、これまでの受験指導の経験を活かし、公務員試験対策に関係する科目も担当しています。

## 田原数哲

短期大学部 キャリアプランニング科 講師  
国家資格キャリアコンサルタント／ガイダンスカウンセラー。地域を支える人材育成を目指し、公務員試験受験指導や就職支援に携わる。



## 豊橋創造大学看護学研修センター新設

### 第1回研修会には、市内外の医療機関に勤める看護師ら34人が参加



研修会の様子

地域の健康を支える大学として地域看護の質の向上への寄与を目指し、2024年4月1日、学内に豊橋創造大学看護学研修センター（藤井徹也セ

ンター長）を新設しました。

センターでは、看護実践の研修会、介護に関する講演会、研究サポートなどを通して、地域の看護に携わる人たちの研究欲や看護技術を向上させ、地域住民の健康に還元することを目的としました。

センター設立に伴い、記念講演会を開催し、「これからの看護職のキャリア構築～大学と臨床の共有」をテーマに、公益社団法人日本看護協会看護研修学校校長の吉村浩美氏による講演が行われました。東三河で

医療に取り組む看護職や看護学生のほか、広く看護に携わる人たちなどの参加もありました。

6月29日には、センターによる第1回研修会「家族支援の事例検討会」が開かれ、市内外の医療機関に勤める看護師を中心に34人が参加しました。藤井徹也センター長は、「実りある研修会になるように」とあいさつし、蒔田寛子看護学科長は「保健、医療、福祉のみなさんが共に学ぶことで、東三河地域の質をあげていきたい」と呼びかけました。

## イオンモール豊川で開催された 「子どもたちのお仕事 体験キッズドリーム チャレンジ」に出展

4月4日から7日まで、豊川市のイオンモール豊川で開催された「子どもたちのお仕事体験キッズドリームチャレンジ」に、本学の保健医療学部看護学科、理学療法学科、短大部幼児教育・保育科が出展し、地域の子どもたちに、保育士、

看護師、理学療法士の仕事体験を提供しました。

看護師体験には、小学1年生から6年生まで16人が参加。子どもたちはナースのユニホームを着て、患者に見立てた看護学科の学生たちの体温や脈拍を測ったり、傷口の消毒や包帯の交換などをして看護師の仕事を体験しました。

保育士体験では、6歳から小学6年生まで16人が参加。1回8人の子どもたちに8人の学生たちが付き、1対1で、赤



ちゃん人形を使ったお世話体験や、食育の教材づくりなどを通して保育士の仕事を体験しました。

患者や保護者に扮した学生たちは、子どもたちの様子を見守りながら、それぞれの仕事を楽しく体験できるように努めました。

## SOZOふれあいフェス 「和太鼓演奏と 和太鼓体験」

幼児教育・保育科1年生44人が  
学修の成果を発表

短期大学部幼児教育・保育科1年生の表現学の授業の集大成として、最終授業に当たる7月20日、豊川市のイオンモールで、SOZOふれあいフェス「和太鼓演奏と和太鼓体験」を開きました。

4クラス44人の学生たちは、和太鼓を題材に、「子どもたちにとっての楽しい音」について考え、チームごとにテーマを決めて作り上げた太鼓演奏を披露しました。担当教員の朝元尊教授は、「互いに意見を出し合い、切磋琢磨して作り上げた個性あふれるオリジナル曲に仕上がっています。楽しんでください」と来場者に呼びかけました。

4チームは、チームごとに特徴ある和



太鼓演奏を披露し、会場を沸かせました。演奏終了後、子どもたちを対象にした和太鼓体験が行われ、学生たちといっしょに楽しみました。

## 豊橋市美術館 リニューアルオープン記念イベントで 幼児教育・保育科2年生が 「ステンドアートシアター」 披露

リニューアルオープンした豊橋市美術館の記念イベントとして、3月8日、幼児教育・保育科2年生15人による「SOZOおはなしのひろば ステンドアートシアター」を開催しました。豊橋市を中心とした地域の未就学児とその保

護者、計46人が訪れ、学生たちと共にステンドアートを楽しみました。

学生たちははじめに、豊橋にまつわる話を題材にしたステンドアートシアターを披露。そのあと、子どもたちと一緒に透明シートや折り紙、マジック等を使ってうちわ状のステンドアートを作り、白いシートに映し出すなどして楽しみました。

3歳の息子と参加した母親は、「これまでコロナ禍だったこともあり、外のイベントに触れることができなかったので、この機



会に体験させようと思って参加した」と話し、子どもの気持ちを掴んだ学生たちの対応に感心していました。学生たちは、この春、全員が保育士になり、活躍しています。

## 本学と豊橋鉄道株式会社 互いの人的資源等を 生かす連携協定締結

本学と豊橋鉄道は、7月24日、教育機関と公共交通機関が相互にもつ人的・知的及び物的資源を多様な分野において活用する連携・協力協定を結びました。締結式は、本学構内のバス停前で



行われ、伊藤晴康学長と豊橋鉄道の岩ヶ谷光晴社長が協定を交わしました。

伊藤学長は、「本学が持つ人的、知的資源等を活用していただき、なかでも健康経営に関わる分野での要望にお応えしたい」と述べました。

岩ヶ谷社長は、「互いの強みを生かし、様々な活動を通して地域発展に努めた

い」と話しました。

今回、協定を機に、両者の連携・協力を示すフレンドシップマークを制作し、同大の路線等のバスに貼るとともに、今後の連携イベント等で使用される予定です。



### 豊橋創造大学

保健医療学部 理学療法学科  
保健医療学部 看護学科  
経営学部 経営学科

### 豊橋創造大学短期大学部

幼児教育・保育科  
キャリアプランニング科  
公務員別科

### 豊橋創造大学大学院

健康科学研究科 健康科学専攻

